



文理分け 大学入試の影響が大

成長分野の人材育成や、大学での文理融合の学びを進めるうえで、早期からの文理分けが行われることが課題として挙げられている。河合塾と朝日新聞が共同で実施した「ひらく 日本の大学」2025年度調査では、文理分けについて、高校と大学に意見を聞いた。

■約7割の高校が文理分けを実施

高校に文理分けの実施の有無と、実施時期を聞いたところ、「実施」が約7割、「実施していない」が約3割となった。実施時期は大半が高2段階からである＜図1＞。大学進学希望者の多い学校では「実施」が大半を占め、短大・専門学校進学者や就職者が多い学校などでは「実施していない」が大半を占める＜図2＞。

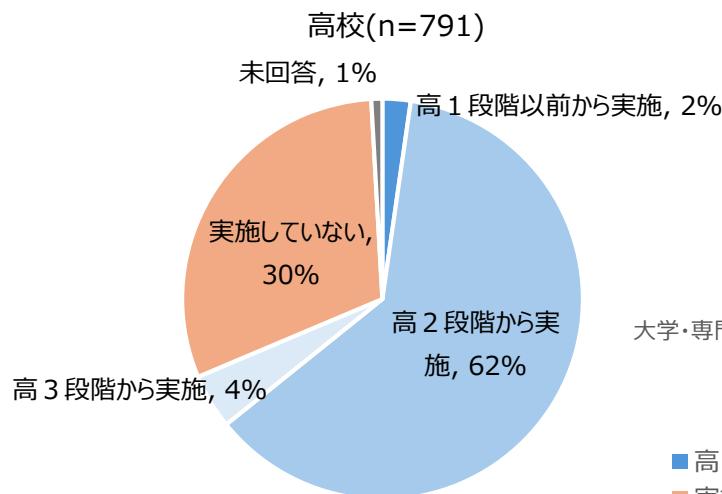
■高校と大学で賛否が分かれる

文理分けの実施について「賛成」「どちらかと言えば賛成」の割合を見ると、高校は約7割となる一方、大学は3割に留まった＜図3＞。

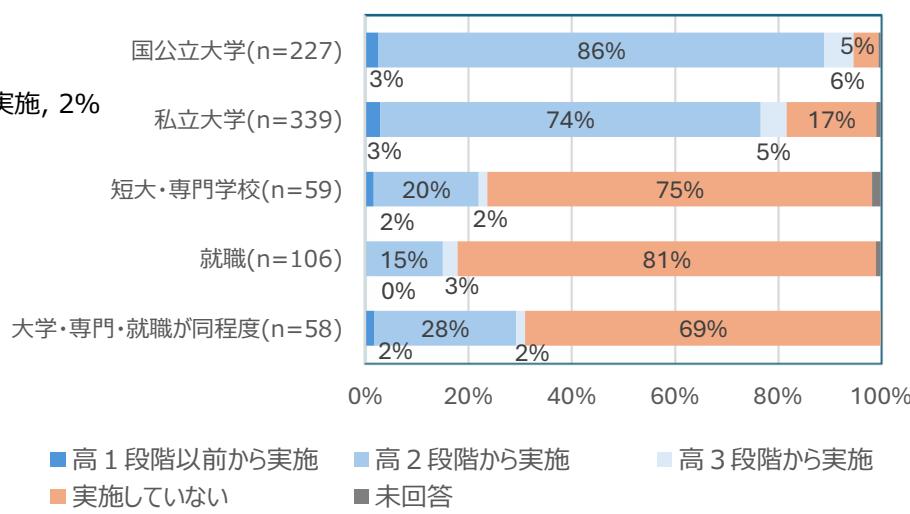
具体的なコメントを見ると、「反対」の理由としては、社会の変化や求められる資質・能力の変化などが挙げられる。一方、「賛成」も積極的な賛成は少なく、「大学入試に対応するためにはやむを得ない」という記述が目立つ。

＜図1～3＞と自由記述を見ても、文理分けの実施には大学入試の影響が大きいことが改めて明らかになった。

＜図1＞文理分けの実施

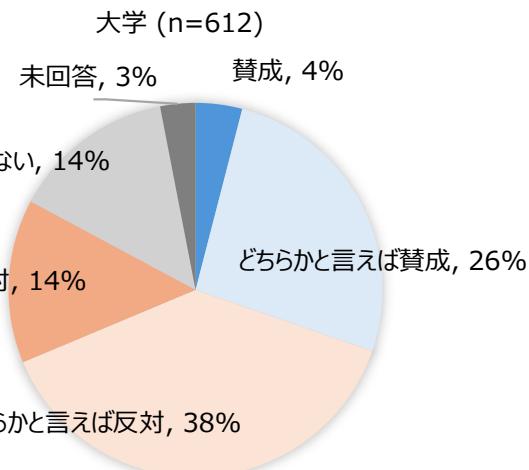
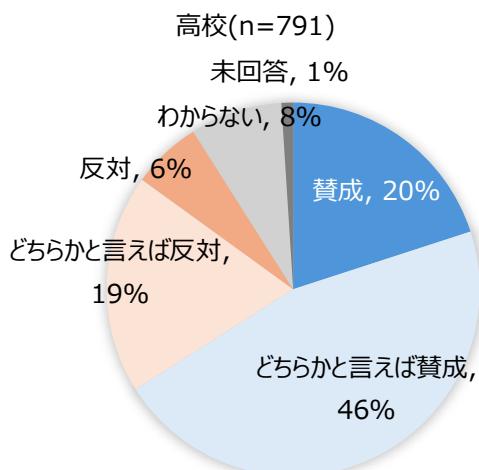


＜図2＞文理分けの実施（高校の進路希望先別）



※「進路希望先」は、「卒業後の希望進路として最も多いもの」の回答より分類

＜図3＞「文理分け」の賛否



＜図1・図2・図3＞とも、朝日新聞×河合塾共同調査「ひらく 日本の大学」2025年度調査より作成。

調査は大学・高校を対象に実施した。それぞれの概要は以下。

（大学版）2025年7月～9月に実施。メールで調査票（Excel）を配布。全国の大学（大学院大学、通信制のみの大学を除く）を対象に実施。回答件数612件。

（高校版）2025年6月～7月に実施。WEBアンケート調査のご案内を郵送。全国の高等学校・中等教育学校を対象に実施。回答件数791件

高校側

賛成

- 大学入試に対応するため。授業時間数や対策のため周りの高校もやっているので仕方ないと考えている。
- 大学入試の方法に変化がなければ、あえて文理分けを否定する理由がないから。
- 文理融合の理念には大変共感できるが、一部の生徒を除いて、高校段階では生徒の不利益になる部分が多いと感じる。高校でも大学でも、今より柔軟に行き来できるシステムが作られていくと良い。
- 文理融合と世の中は言うが、現状では教育課程上なかなか困難である。大学等の入試に対応できる力を養成することが出来ない。学力上位者の集まる高校では、文理融合、文理分けなしは可能だと思う。
- 授業を行う教員の立場だと、文理分けをしていない高校2、3年のクラスでの授業の実施は総じて厳しい。
- ある程度分けないと、生徒の学習が大学入試に対応しきれない状況にある。
- 時間に限りがあり、実施しなくてはならないカリキュラムがある場合やむを得ない。
- 実際に大学入試で課される科目が、文理に分かれているところが大多数である以上、高校のカリキュラムで文理分けをするのは致し方ないと感じます。
- 理系なら理系教科に、文系なら文系教科により時間を割いた方が良いと思うから。
- 理科の教員をしていたが、レベルが違う生徒を教えるのは、至難の業。結局、結果を出すためには、出来ない生徒を置いてくるしかない。得意不得意で、分けてもらえば、授業展開はやりやすい。

反対

- 選択を生徒にじっくり考えさせたいから。
- 世界的には文理分けを行っている国は少ないと聞く。また、生徒に無意識に自分の可能性を狭める声かけとなる可能性もある。
- 高等学校レベルで早期に文理分けを行うと、学問領域を早期に狭めてしまう恐れがある。
- 本校では選択科目があるだけで、文系理系には分けていません。ただ、私立大の受験科目と国公立大の二次試験科目が「英数理」または「英国数or社」と偏っている以上、一般入試がメインの学校は文理分けをせざるを得ないと考えます。
- 現代社会では文理に分けられない、分ける意味のない分野が増えているから。
- 様々な進路を目指す人がクラスの中にいて交流できることが学校生活全体やそれぞれの成長にとって有意義と考える。
- 文系・理系と分けるのは、日本以外でも普通なのか?という疑問を常に抱いているため。

大学側

賛成

- 高校において文系・理系科目のいずれかに重点を置いて教育がなされる点は、時間は有限である以上、取捨選択せざるを得ない内容と認識している。
- 高校段階での文理選択は、これまでの入試制度に対して一定の合理性があったと考える。一方で、大学においても異分野融合型の教育・研究が進展しており、高大接続に一定の工夫が必要と考える。
- 大学入試制度を鑑みると高校での文理分けは必要と感じる。
- 高校の文理分けに関して、大学入試の在り方や大学進学後の教育課程に基づき、慣例的に行われてきた経緯があると思う。しかし、時代の変化にあわせて大学において文理融合を進めていくのであれば、受験科目も変わり、進学後の教育を考えると、文理分けがあったとしてもそれぞれの履修科目に変化があるべきである。
- 高校での文理分けを積極的に賛成しているわけではない。文理分けは大学入試に対応するためであり、それ以外に文理分けを肯定する理由はない。また、そもそも現状は必要に迫られて文理分けを行っているので、「文理分けによる影響を減らす」というのは制度自体の否定ではないか。むしろ、文理分けによる効果を積極的に向上させないと、カリキュラムを分けている意味がない。議論そのものが矛盾を孕んでいるように感じる。

反対

- 文理融合を推進する中、先に文理分けをすると、選択の範囲が狭まる可能性があるため。
- 実際、大学入学後に進路変更する学生もいる。本学では、異分野融合の教育を提供している。
- Society5.0に向けて取り組むべき政策として文部科学省が掲げる文理分断からの脱却や高大接続改革における文理両方を学ぶ人材育成などの観点から、高校での文理分けについては、どちらかと言えば反対する。大学のカリキュラムも多様化し文系と理系に二分できなくなっている、高校でも明確に文理に分ける必要性がなくなっている。
- 早期の文理分けは望ましくない。高等学校での基本的な学習は、大学での学修や社会での活躍に必要である。そのため本学では、アドミッションポリシーに、例えば理工学部で国語や社会のような文科系教科が必要な理由を明示し、高等学校での学習を促している。
- 大学における人材育成に文理融合授業の充実が唱えられており、高校では一部選択科目制はあるものの、人生の早い段階から文理分けをする必要はないと考える。
- 文理の明確な境界はなく、高校では幅広い視野と多様な価値観を身につけることが重要である。
- 近年では多分野の専門家が共同して製品開発などに取り組むことが多いので、他の分野の方法や価値観をある程度理解しておくことが望ましく、その意味で文理を分ける必然性は小さくなっている。



朝日新聞×河合塾 共同調査「ひらく 日本の大学」2025年度調査 結果を活用した記事を掲載！

大学入試を追う 総合型・学校推薦型選抜のこれから

Part1 大学の動向と指導のポイント

Part3 総合型・学校推薦型選抜と学科試験

変わる高校教育 「私立高校無償化」の影響は？

「ひらく 日本の大学」(高校版) から 見えた現場の評価

教育関係者のための情報サイト

Kei-Net Plusで全文公開



Kei-Net Plusでは

他にも、「ひらく 日本の大学」2025年度調査を分析した記事をまとめて掲載中。（URLを添付）

www.keinet.ne.jp/teacher/media/guideline/backnumber/2025.html